

平成30年9月

県内企業の景況意識調査

(第166回)

共同調査

大銀経済経営研究所

大分信用金庫

大分県産業創造機構

* 2018年 7～9月期（Ⅲ期）の実績見込み

* 2018年 10～12月期（Ⅳ期）の見通し

2期連続で悪化

今期（2018年7～9月期（Ⅲ期））の業況判断BSIは、前期比2.1ポイント低下の▲8.1と2期連続で悪化した。前回調査における2018年Ⅲ期の見通し（▲3.5）と比較すると4.6ポイントの下方修正となった。

前期よりも「悪くなった」と回答した企業では、売上の減少や人員の不足、仕入価格や燃料費の上昇を要因として挙げる意見が複数みられた。また、今夏の記録的な猛暑による来店客数の減少を要因として挙げる企業もあった。

業種別のBSIは、『建設業』『製造業』『卸・小売業』の3業種で前期比改善、『金融・不動産業』『サービス業』の2業種で悪化、『運輸業』は前期と同水準であった。

来期（2018年10～12月期（Ⅳ期））の業況判断BSIは、今期比6.7ポイント上昇の▲1.4となる見通しである。

業種別のBSIは、『製造業』『卸・小売業』『サービス業』の3業種で改善する見通しである。また、売上高BSIは5業種で改善、収益BSIは4業種で改善と、来期は幅広い業種で売上高や収益の改善を見込んでいる。

製造業……………2期ぶりに改善

卸・小売業……………卸売業は改善するも、小売業は悪化

建設業……………プラス水準に回復

サービス業……………4期ぶりに悪化

2 期連続で悪化

◎業況判断

【今期】 今期（2018年7～9月期〈Ⅲ期〉）の業況判断 BSI は、前期比2.1ポイント低下の▲8.1と2期連続で悪化した。前回調査における2018年Ⅲ期の見通し（▲3.5）と比較すると4.6ポイントの下方修正となった。

BSI の内訳をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比0.6ポイント減の13.6%、「悪くなった」は同1.5ポイント増の21.7%、「変わらない」は同1.0ポイント減の64.7%となった。

「悪くなった」と回答した企業では、売上の減少や人員の不足、仕入価格や燃料費の上昇を要因として挙げる意見が複数みられた。また、今夏の記録的な猛暑による来店客数の減少を要因として挙げる企業もあった。

業種別の BSI は、『金融・不動産業』『サービス業』の2業種で悪化した。なお、『運輸業』は6期連続でのプラス水準で、直近4期は2桁プラスとなっており、景況感が好調に推移している。

【来期】 来期（2018年10～12月期〈Ⅳ期〉）の業況判断 BSI は、今期比6.7ポイント上昇の▲1.4となる見通しである。

BSI の内訳をみると、「よくなる」と回答した企業は今期比1.3ポイント増の14.9%、「悪くなる」は同5.4ポイント減の16.3%、「変わらない」は同4.1ポイント増の68.8%となる見通しである。

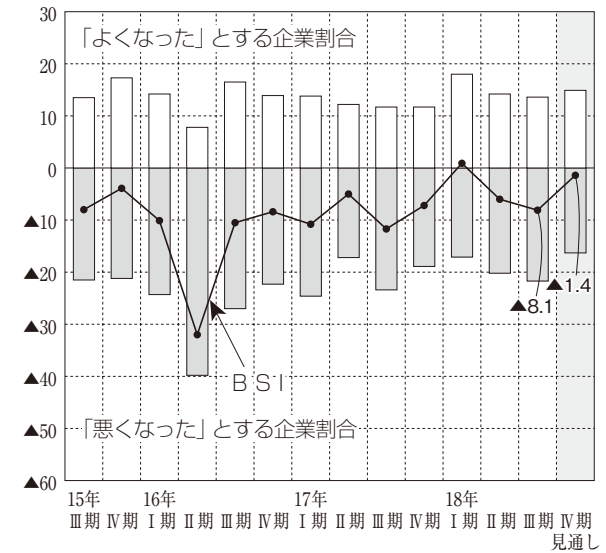
業種別の BSI は、『製造業』『卸・小売業』『サービス業』の3業種で改善する見通しである。なお、『金融・不動産業』は今期と同水準となる見通しである。

◎売上高と収益

【今期】 売上高 BSI は前期比2.4ポイント低下の▲5.0、収益 BSI は同7.9ポイント低下の▲11.4とともに悪化した。業種別にみると、売上高 BSI、収益 BSI とともに『製造業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』の4業種で悪化した。

【来期】 売上高 BSI は今期比10.9ポイント上昇の+5.9、収益 BSI は同10.9ポイント上昇の▲0.5とともに改善する見通しである。業種別にみると、売上高 BSI は『運輸業』を除く5業種で改善、収益 BSI は『製造業』『卸・小売業』『運輸業』『サービス業』の4業種で改善する見通しであり、幅広い業種で売上高や収益の改善を見込んでいる。

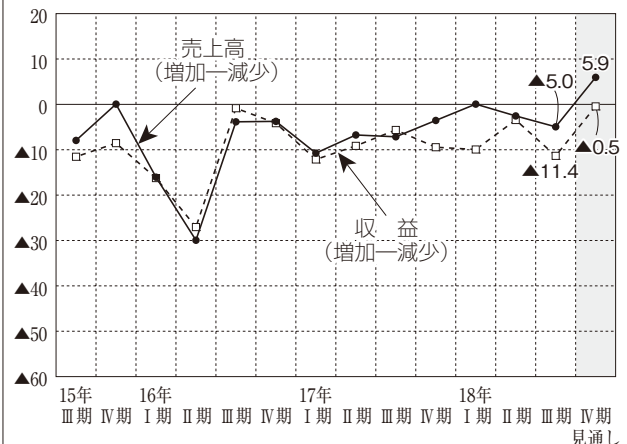
業況判断（BSI）



業況判断指数内訳（BSI）

	2018年Ⅰ期	2018年Ⅱ期	2018年Ⅲ期	2018年Ⅳ期見通し
建設業	18.7	▲6.9	14.8	0.0
製造業	0.0	▲9.0	▲5.6	2.8
卸・小売業	▲13.9	▲22.0	▲21.6	▲10.0
金融・不動産業	14.3	0.0	▲14.3	▲14.3
運輸業	25.0	17.6	17.6	11.7
サービス業	0.0	12.2	▲18.4	0.0
全産業	0.9	▲6.0	▲8.1	▲1.4

売上高と収益（BSI）



◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】所定外労働時間 BSI は前期比2.7ポイント上昇の±0.0となった。業種別にみると、『建設業』『卸・小売業』の2業種で上昇した。

雇用者数の現状 BSI は同0.7ポイント上昇の▲42.4となった。業種別にみると、『製造業』『サービス業』の2業種で上昇した。

【来期】所定外労働時間 BSI は、今期比2.8ポイント上昇の+2.8となる見通しである。

◎資金繰りと金融機関からの借り入れ

【今期】資金繰り BSI は、前期比8.2ポイント低下の▲3.3となった。業種別にみると、『運輸業』を除く5業種で悪化した。

借り入れ BSI は、同0.1ポイント上昇の▲6.7となった。

【来期】資金繰り BSI は、今期比3.3ポイント低下の▲6.6と悪化する見通しである。業種別にみると、『建設業』『製造業』『金融・不動産業』『運輸業』の4業種で悪化する見通しである。

借り入れ BSI は、同1.4ポイント上昇の▲5.3となる見通しである。

◎設備投資実施割合

【今期】実施企業の割合は、前期比3.5ポイント増の43.0%となった。実施企業の割合が4割を超えたのは2000年以降で初めてである。業種別にみると、『製造業』『卸・小売業』の2業種で増加した。

実施企業の投資目的をみると、「補修・更新」が61.7%と最も多く、「生産能力の拡大・売上増加」が19.1%、「合理化・省力化」が7.4%で続く。

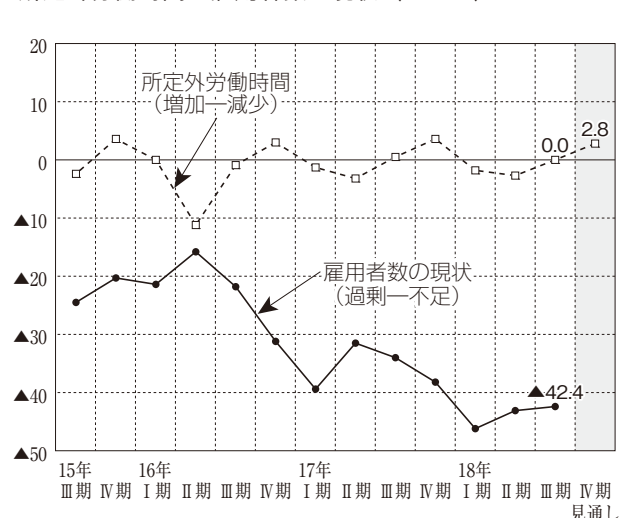
【来期】実施予定企業の割合は、今期比3.6ポイント減の39.4%となる見通しである。業種別にみると、『製造業』『卸・小売業』『運輸業』の3業種で減少する見通しである。

実施予定企業の投資目的をみると、「補修・更新」が53.5%と最も多く、「生産能力の拡大・売上増加」が20.9%、「合理化・省力化」が15.1%で続く。

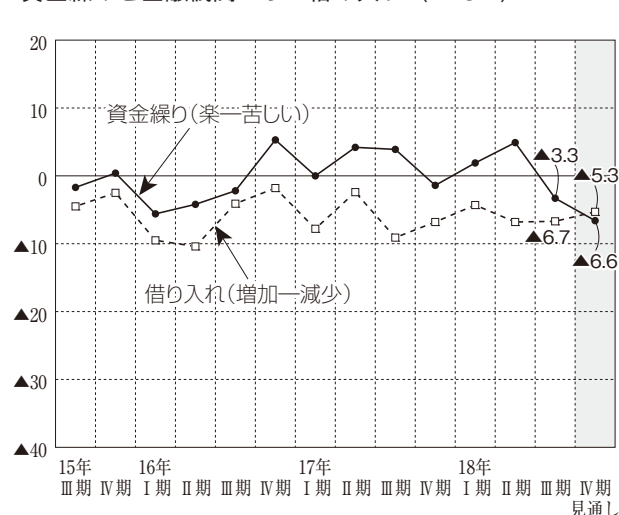
◎「国民文化祭」および「全国障害者芸術・文化祭」の影響について

今回の調査において、「『国民文化祭』および『全国障害者芸術・文化祭』大分開催の自社への影響」について尋ねたところ、「大いにプラスの影響がある」が1.4%、「ややプラスの影響がある」が19.2%、「ややマイナスの影響がある」が1.4%、「大いにマイナスの影響がある」がゼロ、「影響はない」が62.9%、「わからない」が15.0%となった。

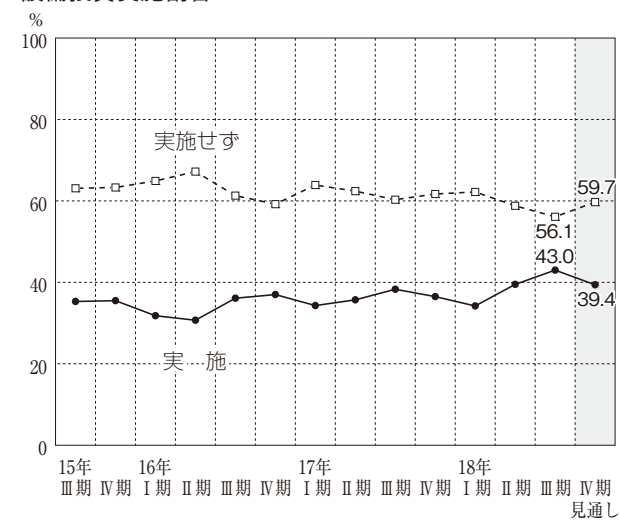
所定外労働時間と雇用者数の現状 (B S I)



資金繰りと金融機関からの借り入れ (B S I)



設備投資実施割合



2期ぶりに改善

◎業況判断

【今期】 業況判断BSIは、前期比3.4ポイント上昇の▲5.6と改善したものの、マイナス水準が続いている。

内訳をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比1.4ポイント増の15.5%、「悪くなった」は同2.0ポイント減の21.1%、「変わらない」は同0.6ポイント増の63.4%となった。

業種別にみると、前期よりも改善した業種は「化学・石油」「鉄・非鉄・金属」「窯業・土石」などの4業種であった。一方、悪化した業種は「機械」「食料品」「木材・家具」などの4業種であった。また、「繊維・衣服」「印刷・出版」については前期と同水準であった。

今回は、前回に比べて前期比で指数が上昇した業種が増え、低下した業種が減ったことから全体として改善傾向にあるといえる。改善の背景として、大手製造業における定期修繕の終了があると考えられる。

【来期】 業況判断BSIは+2.8と、今期比8.4ポイント上昇する見通しである。

内訳をみると、「よくなる」と回答した企業は今期比5.6ポイント増の21.1%、「悪くなる」は今期比2.8ポイント減の18.3%、「変わらない」は同2.8ポイント減の60.6%となる見通しである。

業種別にみると、今期よりも改善見通しは「鉄・非鉄・金属」「機械」「木材・家具」など7業種、悪化見通しが「化学・石油」「食料品」「繊維・衣服」の3業種となっている。

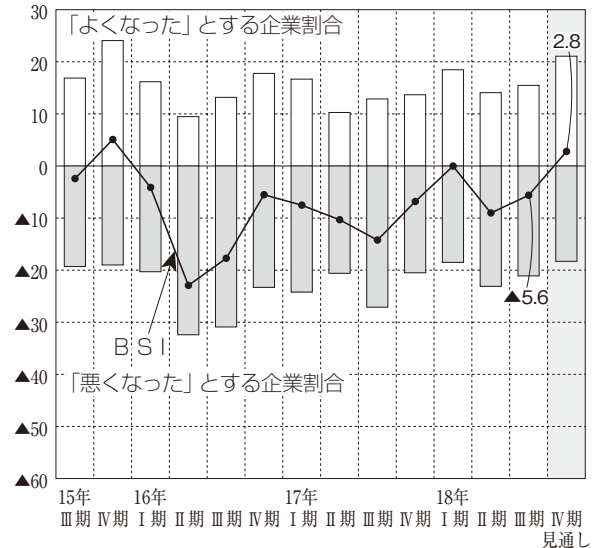
来期は、改善見通しが7業種と幅広い業種で改善を予想している。後述のとおり、受注残高BSIが大きく伸びることが想定されている。それに伴って売上高BSIや収益BSIも上昇するとみられており、業況判断BSIはマイナス水準を脱する見通しとなっている。

◎売上高と生産高

【今期】 売上高BSIは前期比2.8ポイント低下の▲1.5、生産高BSIは同11.0ポイント低下の▲4.3となり、売上高BSI、生産高BSIともに悪化した。

【来期】 売上高BSIは今期比15.8ポイント上昇の+14.3、生産高BSIは同18.8ポイント上昇の+14.5と、売上高BSI、生産高BSIともに大幅に改善する見通しである。

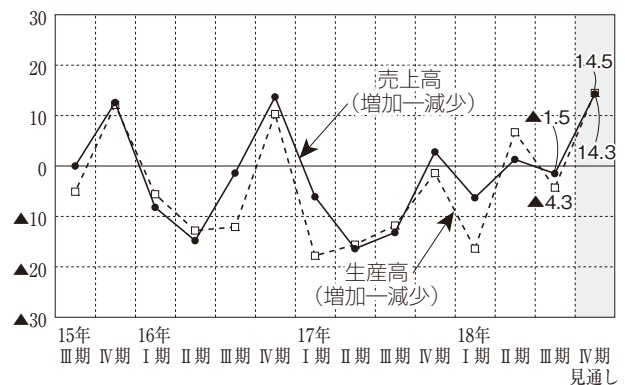
業況判断 (B S I)



業況判断指数内訳 (B S I)

	2018年 I期	2018年 II期	2018年 III期	2018年 IV期見通し
化学・石油	▲14.3	▲16.7	0.0	▲16.7
鉄・非鉄・金属	42.9	▲15.4	0.0	33.3
機 械	0.0	5.8	5.3	15.8
食 料 品	0.0	▲7.7	▲8.3	▲33.3
繊維・衣服	0.0	0.0	0.0	▲100.0
木材・家具	▲14.3	▲1.5	▲28.6	0.0
パルプ・紙	0.0	0.0	▲100.0	0.0
印刷・出版	▲33.3	▲57.1	▲57.1	▲42.9
窯業・土石	0.0	▲25.0	0.0	33.3
ゴム・革・その他	14.3	25.0	50.0	66.7
製 造 業	0.0	▲9.0	▲5.6	2.8

売上高と生産高 (B S I)



◎収益・原材料仕入価格・製品販売価格

【今期】収益BSIは、前期比10.0ポイント低下の▲10.0と低下した。原材料仕入価格BSIは同1.3ポイント低下の+40.6、製品販売価格BSIは同4.5ポイント上昇の+5.9となった。

【来期】収益BSIは、今期比21.5ポイント上昇の+11.5と上昇する見通しである。原材料仕入価格BSIは、同8.7ポイント低下の+31.9、製品販売価格BSIは同1.4ポイント上昇の+7.3となる見通しである。

◎受注残高と製品在庫

【今期】受注残高BSIは、前期比0.2ポイント低下の▲2.9となった。製品在庫BSIは同5.4ポイント低下の±0.0となった。

【来期】受注残高BSIは、今期比14.7ポイント上昇の+11.8、製品在庫BSIは同5.8ポイント上昇の+5.8となる見通しである。

◎設備投資実施割合

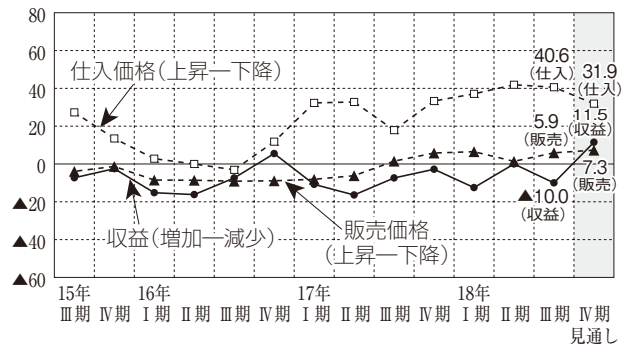
【今期】実施企業の割合は、前期比9.9ポイント増の53.5%となった。投資目的をみると、「補修・更新」が44.7%と最も多くなっている。続いて、「生産能力の拡大・売上増加」23.7%、「合理化・省力化」15.8%となっている。前期と比べ投資目的上位3位の順位は同じであったが、「生産能力の拡大・売上増加」「合理化・省力化」といった目的での投資割合が増えている。

【来期】実施予定企業の割合は、今期比5.6ポイント減の47.9%となる見通しである。投資目的をみると、「補修・更新」が32.4%と最も多くなっている。続いて「生産能力の拡大・売上増加」「合理化・省力化」がともに23.5%となっている。実施予定企業の割合は減少するものの、引続き高水準での推移が予想される。今後も、生産性向上を目的とした設備投資が増えてくるものと考えられる。

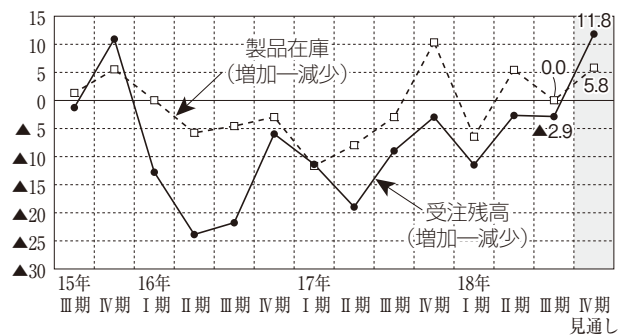
◎経営上の問題点

経営上の問題点については、最も多いのが、「売上不振」で29.0%となり、前期に引き続き企業の多くが売上の伸び悩みを課題としている。続いて、「人手不足」が17.4%、「人材不足」が13.0%となっている。「人手不足」と「人材不足」を合計すると30.4%となり、有効求人倍率が高水準で推移する中、人に関する問題が引続き「売上不振」を上回り、企業の大きな課題となっていることがうかがえる。

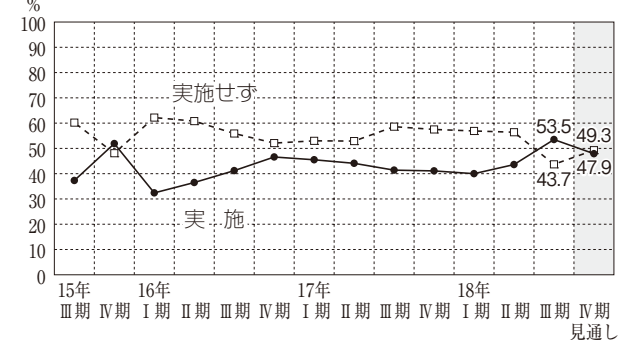
収益・原材料仕入価格・製品販売価格（BSI）



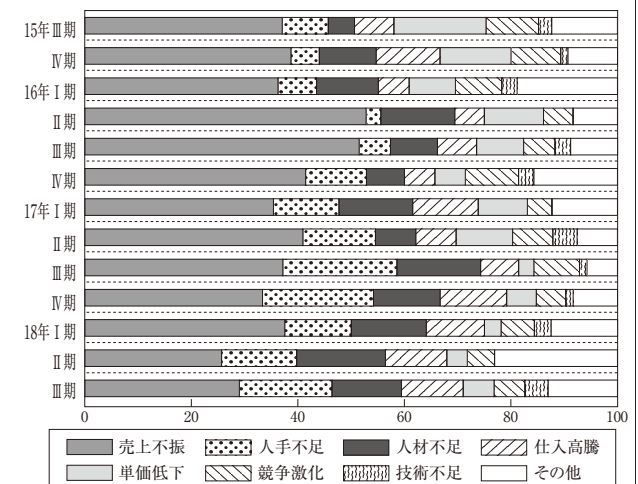
受注残高と製品在庫（BSI）



設備投資実施割合



経営上の問題点 (%)



卸売業は改善するも、小売業は悪化

◎業況判断

【今期】『卸売業』の業況判断 BSI は、前期比9.3ポイント上昇の▲19.2、『小売業』の業況判断 BSI は同7.4ポイント低下の▲23.5となり、卸売業は改善したが、小売業は悪化した。一部ではお中元などの季節需要で業績が改善した企業や売上単価が上昇して利幅が改善した企業があったものの、全体としては燃料価格の高止まりや売上不振などからマイナス水準が続いている。また、小売業では猛暑の影響で来店客が減少する店舗もあった。

BSI の内訳をみると、『卸売業』では「よくなった」と回答した企業は前期比4.1ポイント増の7.7%、「悪くなった」は同5.2ポイント減の26.9%、「変わらない」は同1.1ポイント増の65.4%だった。『小売業』では、「よくなった」と回答した企業は前期比7.0ポイント減の5.9%、「悪くなった」は同0.4ポイント増の29.4%、「変わらない」は同6.6ポイント増の64.7%だった。

【来期】『卸売業』の業況判断 BSI は、今期比3.8ポイント上昇の▲15.4、『小売業』の業況判断 BSI は、今期比17.6ポイント上昇の▲5.9とともに改善する見通しとなった。小売業の中には、気温が落ち着いて客足の持ち直しを期待する企業が見られた。

◎卸売業：売上高と商品在庫

【今期】売上高 BSI は、前期比17.8ポイント上昇の±0.0と改善し、商品在庫 BSI は、同16.0ポイント上昇の+8.3となった。

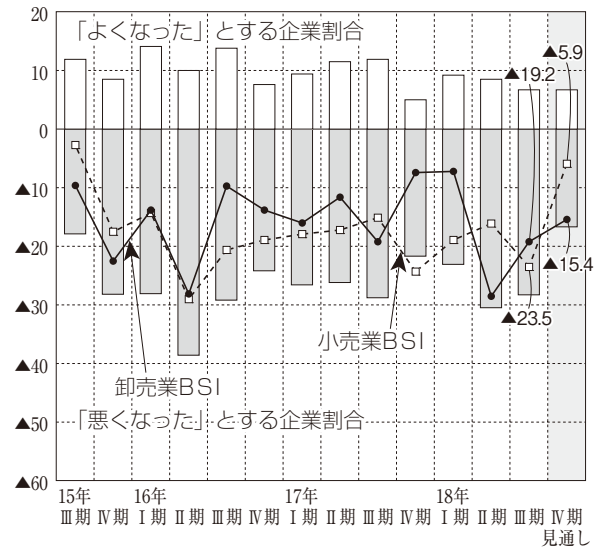
【来期】売上高 BSI は、今期比3.8ポイント低下の▲3.8と悪化する見通しである。また、商品在庫 BSI は、同16.6ポイント低下の▲8.3となる見通し。

◎卸売業：収益・商品仕入価格・商品販売価格

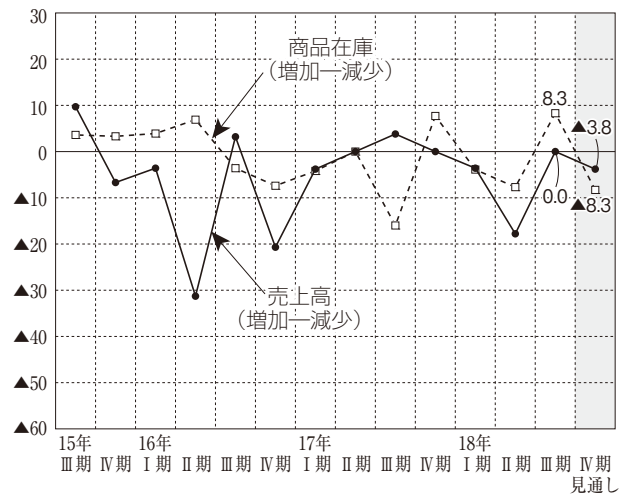
【今期】収益 BSI は、前期比22.2ポイント上昇の±0.0と大幅に改善した。また、商品仕入価格 BSI は同1.3ポイント低下の+33.3、商品販売価格 BSI は同4.4ポイント上昇の+8.4となった。

【来期】収益 BSI は、今期比11.5ポイント低下の▲11.5と悪化する見通しである。また、商品仕入価格 BSI は同8.3ポイント低下の+25.0、商品販売価格 BSI は同0.1ポイント低下の+8.3と、ともに低下する見通しである。

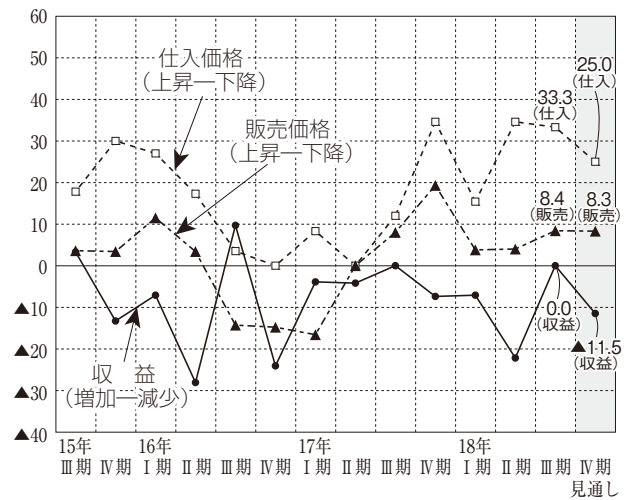
業況判断 (B S I)



〔卸売業〕 売上高と商品在庫 (B S I)



〔卸売業〕 収益・商品仕入価格・商品販売価格 (B S I)



◎小売業：売上高と商品在庫

【今期】売上高BSIは、前期比7.6ポイント上昇の▲11.8と改善した。商品在庫BSIは、前期と同水準の▲12.9となった。

【来期】売上高BSIは、今期比14.8ポイント上昇の+3.0と大幅に改善する見通し。また、商品在庫BSIは、今期と同水準の▲12.9となる見通しである。

◎小売業：収益・商品仕入価格・商品販売価格

【今期】収益BSIは、前期比10.6ポイント低下の▲23.5と悪化した。商品仕入価格BSIは同1.2ポイント低下の+40.7、商品販売価格BSIは同10.4ポイント低下の+21.8となった。

【来期】収益BSIは、今期比14.7ポイント上昇の▲8.8と大きく改善する見通しである。商品仕入価格BSIは同12.5ポイント低下の+28.2、商品販売価格BSIは同6.1ポイント低下の+15.7となる見通しである。

◎設備投資実施割合

【今期】実施企業の割合は、前期比9.7ポイント増の30.0%となった。業種別では、『卸売業』が前期比1.9ポイント減の23.1%となり、『小売業』が同19.2ポイント増の35.3%となっている。

設備投資の内容をみると、『卸売業』では「補修・更新」が83.3%と最も高く、次いで「合理化・省力化」が16.7%となっている。一方、『小売業』では「補修・更新」が66.7%、「生産能力の拡大・売上増加」が25.0%、「その他」が8.3%だった。

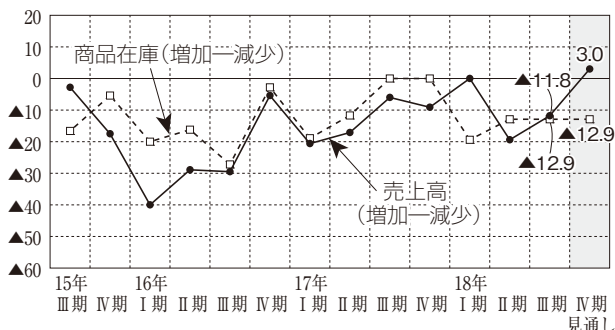
【来期】実施予定企業の割合は、今期比1.7ポイント減の28.3%となる見込みである。業種別では、『卸売業』が今期と同水準の23.1%、『小売業』は同2.9ポイント減の32.4%と、『小売業』では減少する見通しである。

設備投資の内容をみると、『卸売業』は「補修・更新」が83.3%、「合理化・省力化」が16.7%であった。『小売業』では、「補修・更新」が63.6%と最も高く、次いで「生産能力の拡大・売上増加」が36.4%となっている。

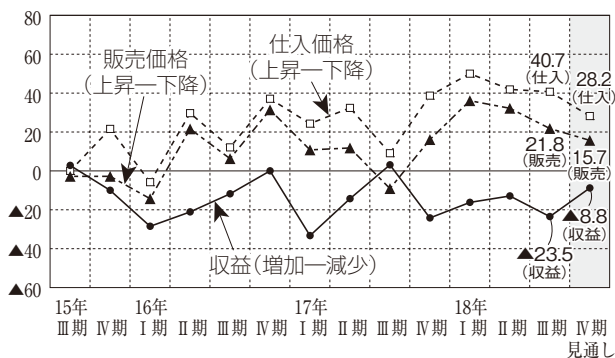
◎経営上の問題点

経営上の問題点については、「売上不振」が44.1%と最も高く、「原材料仕入価格高騰」「人手不足」がともに13.6%、「競争激化」が11.9%、「人材不足」が10.2%、「人件費増」「資金繰り難」がともに1.7%と続いた。

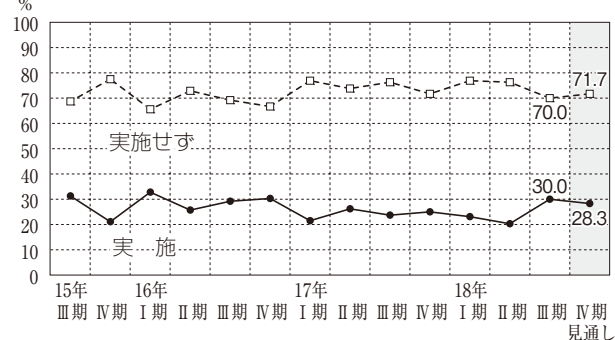
〔小売業〕売上高と商品在庫（BSI）



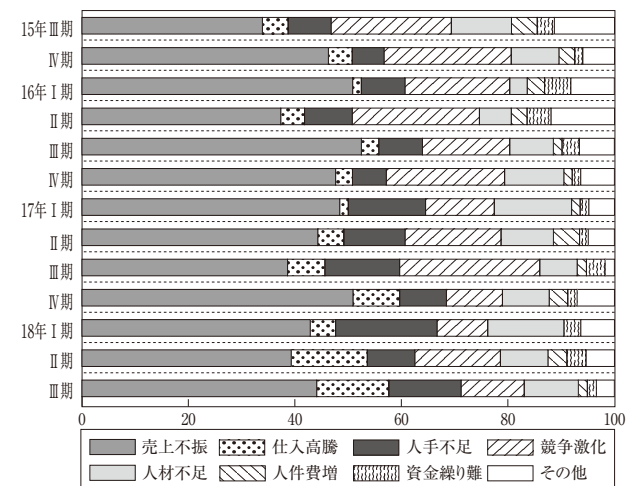
〔小売業〕収益・商品仕入価格・商品販売価格（BSI）



設備投資実施割合



経営上の問題点 (%)



プラス水準に回復

◎業況判断

【今期】 業況判断 BSI は、前期比21.7ポイント上昇の+14.8とプラス水準に回復した。前回調査における2018年Ⅲ期の見通し（+3.5）と比較すると11.3ポイントの上方修正となった。

BSIの内訳をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比15.6ポイント増の25.9%、「悪くなった」は同6.1ポイント減の11.1%、「変わらない」は同9.4ポイント減の63.0%となった。

住宅着工では持家の着工戸数が堅調に推移し、また、公共工事では昨年7月の九州北部豪雨災害および9月の台風第18号災害の復旧工事が進められており、県内建設業の景況感には明るさが見られている。

【来期】 業況判断 BSI は、今期比14.8ポイント低下の±0.0と、悪化する見通しである。

BSIの内訳をみると、「よくなる」と回答した企業は今期比7.4ポイント減の18.5%、「悪くなる」は同7.4ポイント増の18.5%、「変わらない」は今期と同水準の63.0%となる見通しである。

◎売上高と収益

【今期】 売上高 BSI は前期比3.0ポイント上昇の▲7.7、収益 BSI は同3.3ポイント上昇の▲3.8と、ともに改善した。

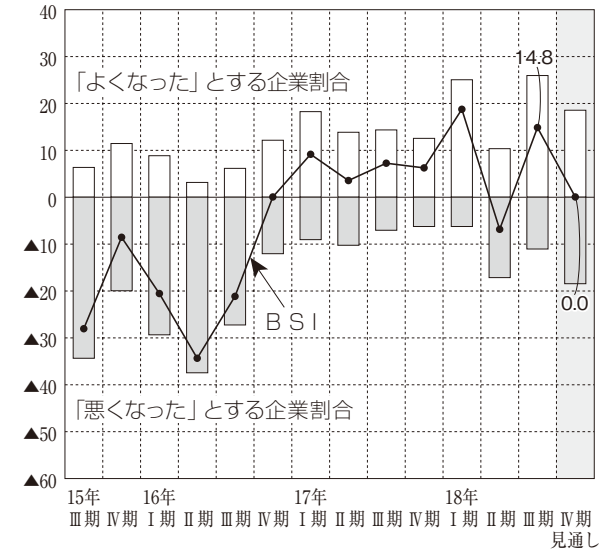
【来期】 売上高 BSI は今期比11.6ポイント上昇の+3.9と3期ぶりにプラス水準に回復する見通しである一方、収益 BSI は同0.1ポイント低下の▲3.9となる見通しである。

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

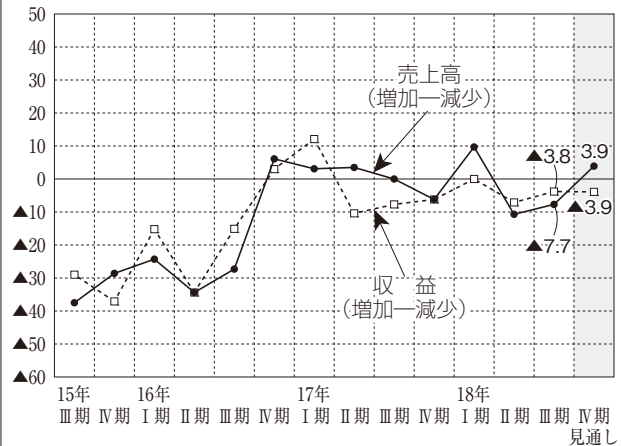
【今期】 所定外労働時間 BSI は、前期比3.0ポイント上昇の▲7.4となった。また、雇用者数の現状 BSI は、同18.4ポイント低下の▲66.7となった。雇用者数が「過剰」と回答した企業はなく、3社に2社が「不足」と回答している。

【来期】 所定外労働時間 BSI は、今期比26.7ポイント上昇の+19.3となる見通しである。

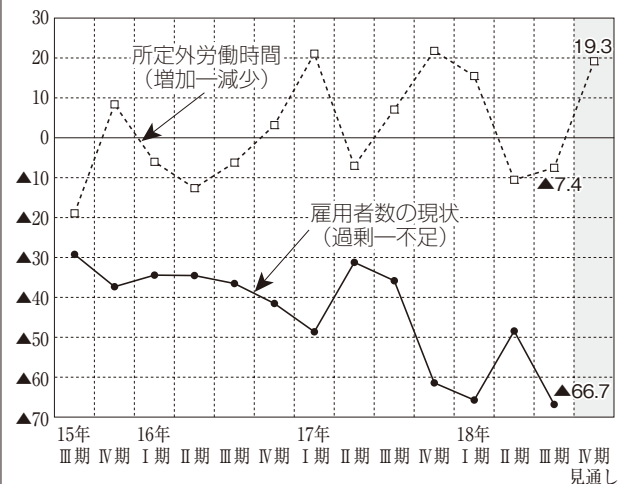
業況判断（BSI）



売上高と収益（BSI）



所定外労働時間と雇用者数の現状（BSI）



◎資金繰りと金融機関からの借り入れ

【今期】資金繰りBSIは、前期比5.7ポイント低下の+11.6と悪化した。また、借り入れBSIは、前期と同水準の±0.0となった。

【来期】資金繰りBSIは、今期比11.6ポイント低下の±0.0と悪化する見通しである。また、借り入れBSIは、同3.8ポイント上昇の+3.8となる見通しである。

◎設備投資実施割合

【今期】実施企業の割合は、前期比8.1ポイント減の33.3%となった。

実施企業の投資目的をみると、「補修・更新」が77.8%と最も多く、「生産能力の拡大・売上増加」が22.2%となっている。

【来期】実施予定企業の割合は、今期と同水準の33.3%となる見通しである。

実施予定企業の投資目的をみると、「補修・更新」が55.6%と最も多く、次いで「生産能力の拡大・売上増加」が33.3%、「合理化・省力化」が11.1%となっている。

◎経営上の問題点

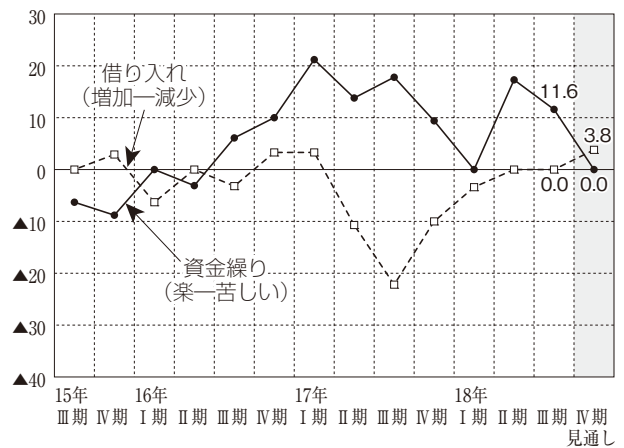
経営上の問題点については、「人手不足」が44.4%と最も多く、次いで「競争激化」が18.5%、「人材不足」が11.1%、「売上不振」「原材料仕入価格高騰」「設備過小」がそれぞれ7.4%となった。

「人手不足」と「人材不足」の合計は55.5%と、過半数の企業が人手・人材不足を経営上の問題点と捉えている。また、前述のとおり雇用者数の現状BSIも▲66.7と、2000年以降で最もマイナス幅が大きい。人手・人材不足への対応が喫緊の課題となっている。なお、「売上不振」は長らく経営上の問題点の1位または2位であったが、今期は4位へと順位が下がっている。

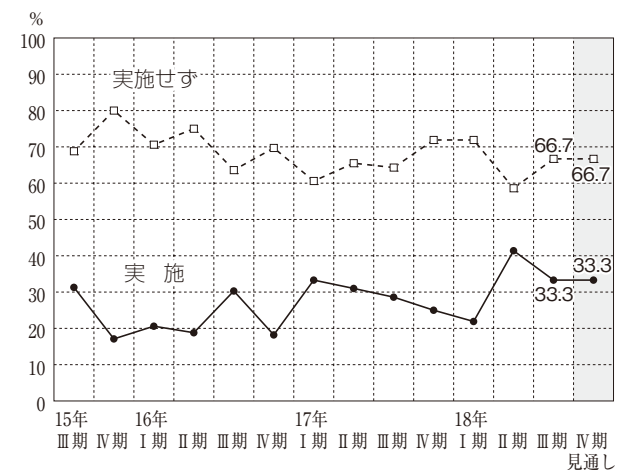
公共工事の動向について、西日本建設業保証の4月から6月までの保証取扱動向（請負金額）でみると、前年同期比3.4%増となった。7月単月では、前年同月比33.8%減であった。

また、住宅投資の動向について、4月から6月までの新設住宅着工戸数でみると、前年同期比7.5%増の1,812戸となった。7月単月の着工戸数は、前年同月比11.9%増の703戸であった。

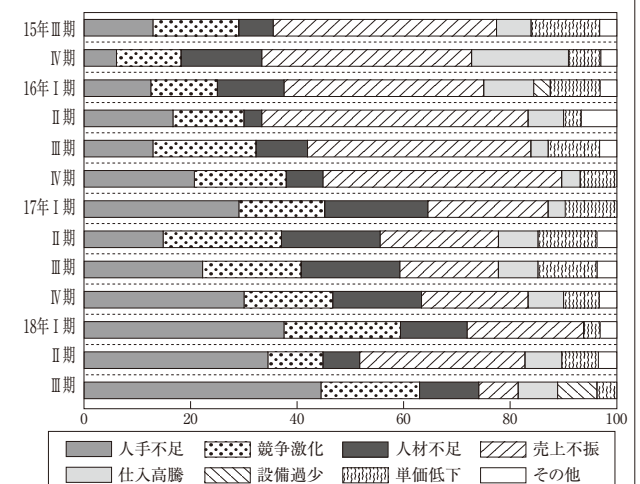
資金繰りと金融機関からの借り入れ（BSI）



設備投資実施割合



経営上の問題点 (%)



4期ぶりに悪化

◎業況判断

【今期】 業況判断 BSI は、前期比30.6ポイント低下の▲18.4と4期ぶりの悪化となった。ホテル・旅館を中心に観光関連に落込みがみられ景況感が悪化しており、前回調査における2018年Ⅲ期の見通し(±0.0)と比較すると18.4ポイントの下方修正となっている。

BSIの内訳をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比16.5ポイント減の7.9%、「悪くなった」は同14.1ポイント増の26.3%、「変わらない」は同2.4ポイント増の65.8%と、「悪くなった」「変わらない」と回答する企業が増加、「よくなった」が減少した。

サービス業のうち観光関連の16社をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比32.6ポイント減の6.3%、「悪くなった」と回答した企業は同37.5ポイント増の37.5%となり、3期ぶりに「悪くなった」と回答する企業が「よくなった」と回答する企業を上回った。要因としては、記録的猛暑、台風、豪雨等の影響から「悪くなった」と回答する企業が増加したものと考えられる。観光関連以外(22社)では、「よくなった」と回答した企業が9.1%、「悪くなった」と回答した企業が18.2%となった。

【来期】 業況判断 BSI は、今期比18.4ポイント上昇の±0.0と改善する見通しである。

内訳をみると、「よくなる」と回答した企業は今期比5.3ポイント増の13.2%、「悪くなる」は同13.1ポイント減の13.2%、「変わらない」は同7.9ポイント増の73.7%となる見通しである。

◎売上高と収益

【今期】 売上高 BSI は前期比13.1ポイント低下の▲13.1と4期ぶりの悪化となった。また、収益 BSI は同23.4ポイント低下の▲18.4と2期ぶりの悪化となった。

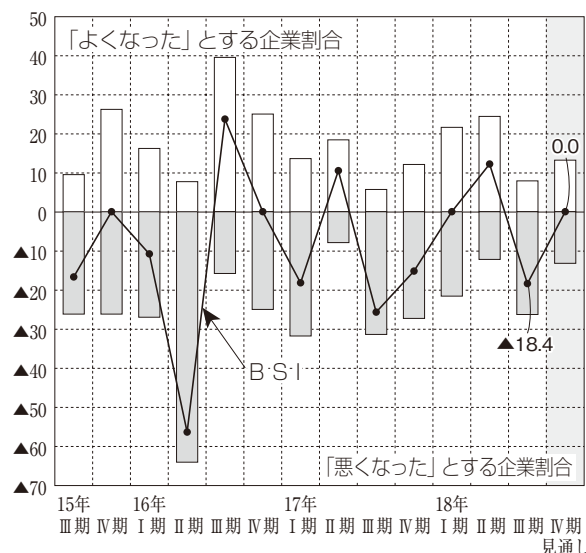
【来期】 来期の売上高 BSI は今期比15.7ポイント上昇の+2.6、収益 BSI は同13.1ポイント上昇の▲5.3と、ともに改善する見通しである。

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

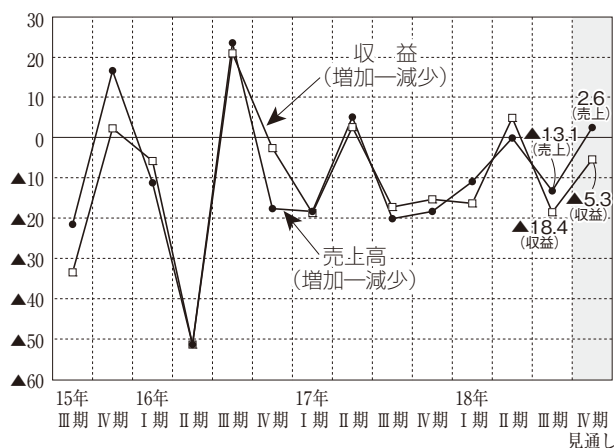
【今期】 所定外労働時間 BSI は、前期比13.0ポイント低下の▲2.7となった。一方、雇用者数の現状 BSI は、同2.7ポイント上昇の▲63.2となった。

【来期】 所定外労働時間 BSI は、今期比2.6ポイント低下の▲5.3となる見通しである。

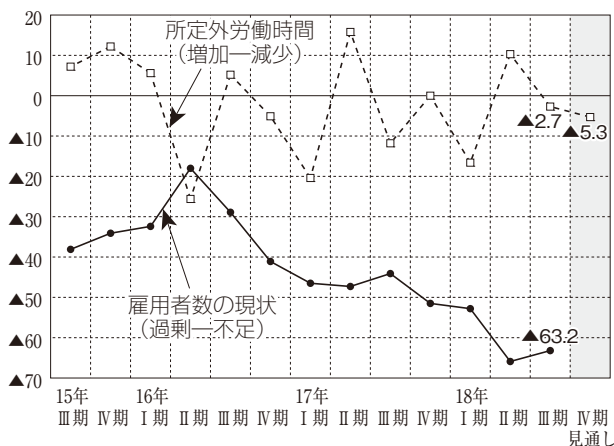
業況判断 (B S I)



売上高と収益 (B S I)



所定外労働時間と雇用者数の現状 (B S I)



◎資金繰りと金融機関からの借り入れ

【今期】資金繰りBSIは、前期比16.0ポイント低下の▲8.3と悪化した。借り入れBSIは同6.1ポイント低下の▲22.8となった。

【来期】資金繰りBSIは、今期比5.5ポイント上昇の▲2.8、借り入れBSIは今期比8.6ポイント低下の▲31.4となる見通しである。

◎設備投資実施割合

【今期】実施企業の割合は、前期比4.1ポイント減の44.7%であった。

投資目的別にみると、「補修・更新」が70.6%と最も多く、次いで「生産能力の拡大・売上増加」が11.8%となっている。

【来期】実施予定企業の割合は、今期と同水準の44.7%となる見通しである。

投資目的別にみると、「補修・更新」が64.7%と最も多く、次いで「生産能力の拡大・売上増加」「合理化・省力化」がともに11.8%となっている。

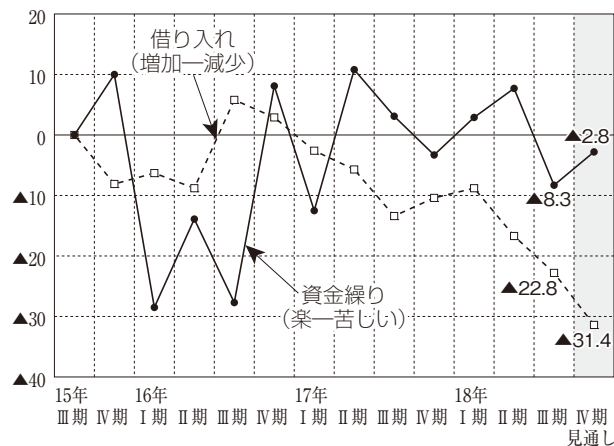
◎経営上の問題点

経営上の問題点については「売上不振」「人材不足」がともに26.3%と最も多かった。次いで「人手不足」が23.7%、「販売受注単価低下」「原材料仕入価格高騰」「競争激化」がそれぞれ5.3%となった。「人手不足」「人材不足」合わせて5割となっており、引き続き人手不足感が強い状態が続いている。

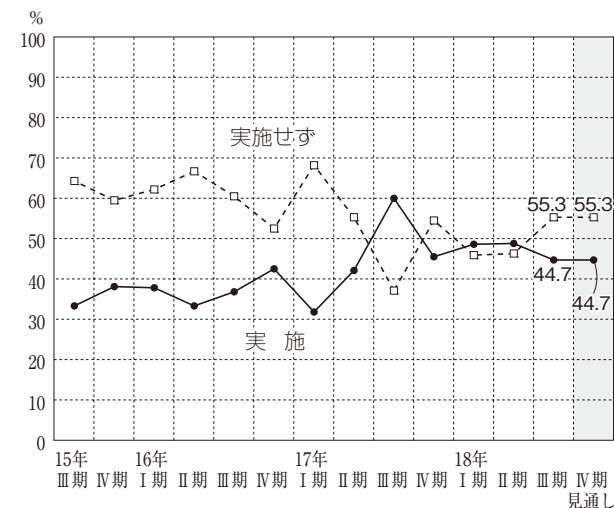
県内の観光動向について、大分県の観光統計調査の今期（2018年4～6月）の宿泊客数をみると、前年同期比1.4%の微減となった。宿泊者数の内訳をみると、国内客が同2.0%減、外国人客が同1.0%増となっており、外国人客は熊本地震後8期連続でプラス、昨年は伸び率が全国トップ（観光庁統計）となっているが、今年に入ってから伸び率は落ち着きつつある。

なお、7月単月では、宿泊者数は前年同月比1.4%減となった。内訳をみると、国内客が同2.6%減、外国人客が同5.2%増となっており、外国人客は増加したものの、上旬の豪雨、下旬の台風の影響により国内客が落ち込み、全体では前年を下回った。

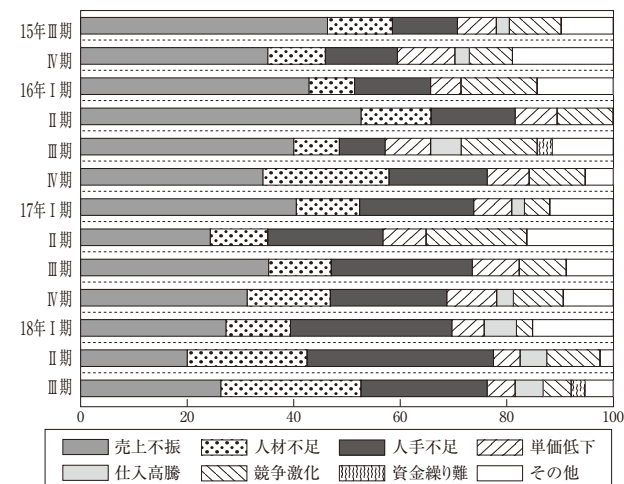
資金繰りと金融機関からの借り入れ（BSI）



設備投資実施割合



経営上の問題点 (%)



BSIとは

BSIとは“Business Survey Index”の略

企業経営者の業況に関する判断や景気見通しを“よくなる・よくなった”、“変わらない”、“悪くなる・悪くなった”という3つの形式で回答を求め、これを数値であらわしたものである。

BSIは次の数式で求められる。

①〔よくなる〕+〔変わらない〕+〔悪くなる〕=100%とする

②〔変わらない〕の回答分を除く

③ $BSI = [よくなる] - [悪くなる]$

BSIが前期を上回れば景気は改善、前期を下回れば悪化という見方をする。

調査の概要

当調査は、大銀経済経営研究所、大分信用金庫、大分県産業創造機構の三者合同によるアンケート調査である。

◎調査時点 平成30年8月20日

◎調査の内容

- ・自社の景況の実績と見通し
- ・売上高と収益の実績と見通し
- ・設備投資実施割合
- ・経営上の問題点など

◎調査対象

- ・県内に本社または出先事業所を有する企業460社

◎回答企業数 221社

- ・回答率 48.0%

・規模別割合

資本金1千万円未満・個人	7.2%
資本金1千万円～1億円未満	64.3%
資本金1億円以上	18.1%
無回答	10.4%